

C型肝炎の治療法 多剤組み合わせて

Q 七十三歳、男性。以前結核の手術で輸血を受け、五年前にC型肝炎と診断されインターフェロン療法を受けました。しかし副作用が強く病気もよくなりません。将来がんになる確率が高いといわれ心配です。適切な漢方治療はありますか。

A インターフェロンは現在、治療が難しいC型肝炎のウイルスを排除するために最も効果的な薬と考えられている。しかし種々の副作用があり、効かないタイプも多い。そこで長期的に服用でき、安全性の高い漢方治療に期待が高まっている。

漢方薬には、抗炎症作用とウイルス抑制作用の両面があり、小柴胡湯（しょうさいことう）はC型肝炎から進展した肝臓がんの発生頻度を

抑えるという貴重な報告がある。しかし質問者のように高齢の場合は、漢方的にみて小柴胡湯の適応は少ないのが実情である。

むしろ一般に補剤といわれる補中益気湯（ほちゅうえつきとう）、十全大補湯（じゅうぜんたいほとう）、人参養榮湯（にんじんようえいとう）などで長期的に生体の免疫力を高めながら、抗炎症作用やウイルス抑制作用のある処方^が勧められる。

インターフェロンや漢方薬の素材である甘草（かんそう）から抽出した強力ミノファージェンCの注射など多剤を上手に組み合わせていくのが長期戦略として最も良いと考える。インターフェロン-αと小柴胡湯の併用は副作用頻度^が増えるため禁忌である。